



子どもの成長を支える

校長 有本 勝彦

夏休みが終わり、子どもたちが元気に登校してくる姿を見て、毎日うれしい気持ちでいます。この8月は、これまでにない規模での新型コロナウイルス感染拡大の様相を呈し、心配と不安な中での始業式となりました。学校では引き続き、できうる限りの感染予防策を講じながらの教育活動を最大限進めてまいります。今後も保護者、地域の皆様のご理解ご協力を賜りますようお願いいたします。始業式には、夏休みの充実ぶりを思わせる子どもたちの笑顔をたくさん目にすることができました。大きな事故や怪我なく、無事に2学期を迎えることができたことに改めて感謝申し上げます。

さて、夏休み中の全国的な新型コロナウイルス感染拡大状況の中、第104回全国高校野球選手権大会、いわゆる夏の甲子園が開催され、日々熱戦が繰り広げられました。全国的な感染拡大状況の中でしたので、有観客での開催についての議論、参加チーム内での集団感染の発生、熱中症予防と感染防止の両立など様々な苦労があったようです。それでも関係者の方々を大会推進に突き動かしたのは、興行による経済面や野球振興への願いよりも、この夢舞台にすべてをかけてきた全国の高校球児のため、という思いによるところと考えます。画面を通して目にするのは高校球児たちですが、むしろ私は、高校球児の活躍や成長を願って大会を支える多くの大人の姿を想像しながらTV中継を視聴していました。

また、甲子園といえば、今年8月22～26日に佐渡を会場に「国土交通大臣杯 全国離島交流中学生野球大会」いわゆる「離島甲子園」が開催されました。地理的環境から島外との交流機会の少ない全国の離島の中学生が一堂に会し、野球を通じて「島」と「島」の交流を図ることにより、新たな人間形成や健全な青少年・少女の育成を促進することで、将来を通じた離島地域の振興に寄与することを目的とした大会です。佐渡島内の4会場で、全国の離島の中学生が熱戦を繰り広げたとのことですが、その陰には朝5時から参加チームの案内に向いたり仕事返上で試合進行に協力したりする、佐渡市内の大人の皆さんの協力あってのことだとお聞きしました。出場した子どもたちの活躍が、多くの大人の方々の献身的な協力によって支えられていたことを知り、頭の下がる思いがしました。

振り返れば河崎小でも、去る8月21日（日）にPTA奉仕作業がありました。朝早くから多くの保護者の方がご参集くださり、グラウンドをはじめ校地の除草をしていただきました。作業後、すっかりきれいになったグラウンドを前に「これで子どもたちを迎えることができる」という安堵感と「休日返上で子どもたちのためにご協力くださった」保護者の皆様への感謝の気持ちでいっぱいになりました。ありがとうございました。

場面や場所はちがっても、次の時代を担う子どもが健やかに育つための環境を整えるため、様々な人々が力を尽くしています。私たち教職員もその一員として、地域や保護者の皆様としっかり手を携えながら、未来を担う子どもたちを育てていきたいと思っております。

河崎小学校の2学期が始まりました。どうぞよろしくお願ひいたします。